

(様式1)

環境配慮検討書

伊建 第 1116 号
平成 22年 12月 14日

三重県環境調整システム推進会議 部会長 様

伊勢建設事務所長

三重県環境調整システム推進要綱第4条の規定に基づき提出します。

対象事業の名称	一般国道260号(木谷バイパス)		
連絡先	担当室又は課所名	三重県 伊勢建設事務所 事業推進室 道路課	
	担当者・氏名	森口 哲之	電話番号 0596-27-5212

1 事業の計画の名称、目的及び内容

(1)名称	一般国道260号(木谷バイパス) 整備事業	
(2)目的	国道260号の木谷バイパスは伊勢志摩国立公園内に位置し、度会郡南伊勢町と志摩市浜島町を結ぶ主要路線であり唯一の生活道路である。当路線は第3次緊急輸送道路となっているが、現道は狭隘で見通しの悪い曲線が連続しており、土砂災害等の危険な区間もあり、円滑な交通の妨げとなっている。本事業では、このような状況を解消し、安全で円滑な道路交通を確保することを目的としている。	
(3)事業主体	三重県	
(4)計画内容	計画地の位置 位置図を添付すること	志摩市浜島町南張～度会郡南伊勢町木谷
	建物・施設等の概要 (用途、規模、面積、配置等) 配置図を添付すること	a. 道路規格 道路区分 3種3級 ・道路の幅員 W= 6.00(9.75)m ・道路延長 L= 1.08km ・設計速度 40km/h b. 計画交通量 4279台/日
	用水の使用計画	-
	エネルギーの使用計画	-
	雨水、汚水の排水計画	雨水: 道路排水施設により既存水路へ導く 汚水: なし
	道路・交通計画	起点側は宿浦バイパス工区で整備済みであり、終点側は木谷拡幅工区で現在整備中である。
	工期	ア) 着工の予定時期 イ) 完工及び供用開始の予定時期
(5)関連事業計画	特になし	
(6)その他	特になし	

2 計画地の社会的条件の現況等

(1)計画地の社会的条件の現況	交通の現況	<p>国道260号(木谷バイパス)は南伊勢町内の宿浦・田曾浦地区と南伊勢町役場などがある五ヶ所地区を結ぶ道路であり、通勤・通学、物資輸送などの日常生活に欠かせない生活道路となっている。</p> <p>計画地の起点側は、宿浦バイパス工区として整備済みであり、終点側は木谷拡幅工区として現在工事中である。</p>
	土地利用の現況	<p>伊勢志摩国立公園内に位置する水産農業地域であり、家屋件数100戸程度の漁村である木谷集落周辺には多くの係船施設が見られる。全体としては山地部で自然林が繁茂しており、谷部に分布する狭い平地部のほとんどが水田として利用されている。</p>
	水域利用の現況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業用水が利用され、圃場整備された区域には、農業用の排水路が整備されている。 ・ 宿浦加圧ポンプ場(パールランド南志摩などへの水を供給している)
	生活関連施設の現況	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校施設: なし 2. 医療施設: なし 3. 文化施設: 常慶院(木谷集落内) 4. 史 跡: ビヤクラク遺跡……縄文時代の石斧が出土 5. その他: 宿浦加圧ポンプ場……パールランド南志摩などへの水を供給
(2)関係法令等による地域の指定・規制状況	自然環境保全地域等の指定状況	<p>自然環境保全地域(地区)、自然公園地域(区域)、鳥獣保護区の指定状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然環境保全地域: 指定なし 2. 自然公園地域: 伊勢志摩国立公園・第3種特別地域 L=50m ・普通地域 L=1,030m 伊勢志摩国立公園 鶺方神津佐線道路(車道) 3. 鳥獣保護地域: 一部「南勢町東部鳥獣保護区」に指定
	土地利用規制の現況	<p>都市計画法、農業地域振興法、森林法等の規制状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 都市計画法 : 規制なし 2. 農業地域振興法 : 規制あり(農業振興地域) 3. 森林法 : 規制あり(森林地域 地域森林計画対象民有林)

3 計画地の自然的条件の現況

(1)地形・地質	文献の調査	文献名	日本の地質(中部地方)	
	現地調査の有無	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/> (実施日時)	聴取調査の有無	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>
	調査結果等	計画地の地形は、標高10～90mの丘陵地と標高0～7mの低地からなり、地質は四万十層郡の堆積岩(砂岩、泥岩、砂岩泥岩互層)から構成されている。		
(2)水象	文献の調査	文献名	なし	
	現地調査の有無	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/> (実施日時)	聴取調査の有無	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>
	調査結果等 河川、湖沼	該当なし		
	海域			
(3)気象・大気質等	調査の方法	気象庁2009年データ(南伊勢)		
	調査結果	気温： 年平均16.0 (最高34.4、最低-4.8) 降水量： 2,297ミリ 最多風向： 東北東 風速： 1.4m/s(最大13.7m/s) 瞬間最大風速29.2m/s 東 大気質： 最寄の大気汚染常時観測測定局(鳥羽市)における結果(2009年度) SO ₂ : 0.002ppm(年平均) NO ₂ : 0.007ppm(年平均) SPM : 0.022mg/m ³ (年平均) 水質： なし		
(4)生態系等	文献の調査	文献名	自然環境保全基礎調査(環境省) 平成21年度 環境白書(三重県) 三重県レッドデータブック2005	
	現地調査の有無	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/> (実施日時)	聴取調査の有無	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>
	調査結果等 植物	植生の概要 紀伊半島沿岸を代表するヤブツバキがいたるところに生息している。おもに海岸近くではウバメガシが主でアラカシヤブツバキ、クチナシなどが混生する。丘陵地ではアカマツ、クロマツなどマツ類が大きく見られ、集落に近い里山ではアラカシ、コジイ、ヤマモモ、ヤブツバキなど常緑広葉樹が茂り、ヤブラン、シュラン、ヒツバなど下草として生えている。 貴重な植物個体： レッドデータブックによると、この地域周辺に分布する希少種は、種子植物28種、シダ植物2種、コケ植物2種、キノコ類1種が記載されている。 貴重な植物群落： 該当なし		
動物	動物相の概要： 哺乳類はネズミ類、キツネ、タヌキ、イタチ、イノシシ、ニホンジカなど広く分布している。 貴重な動物： レッドデータブックによると、この地域周辺に分布する希少種は、鳥類3種、爬虫類2種、真正クモ類1種、昆虫類11種が記載されている。			

(5)自然景 観・文化 財等	文献の調査	文献名	三重県指定文化財一覧(HP) 三重県埋蔵文化財センター(HP)	
	現地調査の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 (実施日時)	聴取調査の有無	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>
	調査結果等 自然景観	<p>自然景観の概要: 自然景観の概要: 対象地域は伊勢志摩国立に指定されており、海岸線沿いでは、リアス式海岸となっている。</p> <p>貴重な自然景観: 特になし</p>		
	文化財、史 跡、名勝等	<p>史跡・名勝・天然記念物: 特になし</p> <p>埋蔵文化財包蔵地: 近隣には、ピヤクラク遺跡、木谷遺跡、トコギ遺跡がある。</p>		
野外レクリエ ーション 他	<p>一体に別荘地が広がり、パールランド志摩では貸し別荘としての利用も見られる。テニスやバーベキューや釣りの施設も完備されている。</p>			
(8)その他、 自然災害 等				

4 事業計画の検討内容(複数案比較)

* 用地選定が異なる計画、同じ用地での異なる計画等との比較を行う。比較検討用の位置図を添付すること

		事業計画案(Aルート)	比較検討(Bルート)
(1)計画の概要		バイパス案 施工延長 L=1.08km 内トンネル 1本(L=451m)	現道拡幅案 施工延長 L=1.30km 内橋梁 2橋(L=275.0m)
(2)環境評価 (* 左欄に を相対評価で記入し、右欄に評価の理由を記入) 循環を基調とした持続的発展が可能な社会の構築 人と自然が共にある環境の保全 やすらぎとるおいのある快適な環境の創造			
-1 地球温暖化防止		現道案に比べ縦断の急勾配区間が少なく排気ガスの排出を抑えられる。	現道拡幅ルートとして現況地形に計画縦断が左右され、急勾配区間が多い。
-2 廃棄物対策		・土工バランスを考慮し、残土の発生を抑えている。 (発生残土量 V=9,700m ³) ・発生するコンクリート塊、アスファルト塊、木くずは、再生資源化施設へ搬出しリサイクルを図る。	・土工バランスが悪く、多量の土砂が不足することから、他工事からの搬入が必要となる。 (不足土量 V=65,000m ³) ・発生するコンクリート塊、アスファルト塊、木くずは、再生資源化施設へ搬出しリサイクルを図る。
-3 生活環境の保全		工区の約半分がトンネル構造となり土地改変面積を抑えることができるが、一部田畑を潰す必要がある。 改変面積 A=26,990m ²	極力現道を活かした案であり、田畑への影響はほとんど無い、土地改変面積は大きくなる。 改変面積 A=43,640m ²
-4 その他重点項目		・全線バイパス区間となるため現況交通に影響なく施工が可能となる。 ・低騒音型、排出ガス対策型の重機を使用する。	・現道拡幅工事である為、現道の切回し等の対策が必要となり現況交通への影響が大きい。 ・低騒音型、排出ガス対策型の重機を使用する。
-1 野生生物等の生育空間の確保		工区の約半分がトンネル構造であり、鳥獣保護区を回避できることから野生鳥獣に対する影響は少ない。	現道拡幅案ではあるが、一部鳥獣保護区を通過することから、Aルートに比べ影響がある。
-2 希少な野生生物の保護		希少な野生生物が確認された場合は、保護について関係機関と協議を行い保護に努める。	希少な野生生物が確認された場合は、保護について関係機関と協議を行い保護に努める。
-3 地形、地質等の改変の抑止		工区の約半分をトンネル構造が占めることから、地形の改変を抑えることが出来る。	現道拡幅案ではあるが、長大盛土法面が発生する等Aルートに比べ影響が大きくなる。
-4 その他重点項目		特になし	特になし
-1 緑化、周辺景観との調和		道路法面緑化等により周辺環境との調和が図られる。トンネルにより、自然を残し自然景観に配慮する。	道路法面緑化等により周辺環境との調和を図っているが、一部橋梁構造となる為、周辺の景観に影響がある。
-2 親水等、ふれあい空間づくり			
-3 その他重点項目			
上記以外の特記事項			

5 事業計画案の環境配慮に係る評価

長 所	<ul style="list-style-type: none">・ 比較ルートと比べ縦断の急勾配区間が少なく排気ガスの排出を抑えられる。・ 工区の約半分をトンネル構造とすることで野生鳥獣に対する影響を抑えることが出来る。・ 道路法面緑化等により周辺環境との調和が図れる。・ トンネル構造により、自然を残し自然環境に配慮した。
短 所	<ul style="list-style-type: none">・ 山間部の少ない田畑を一部潰すことになる。
会議で調整を要する事柄	